

あつついお風呂

遠藤 凛えんどう りん

「あちちちちちちちち!!。」
ぼくは、毎日おじいちゃんとお風呂に入ります。

「こんなのあつくねえべえ。」
おじいちゃんは、熱いお風呂がとても好きです。お風呂は熱くなると、

「入った気がしない!。」
からだそうです。でも、ぼくには、
「あちちちちちちち!!。」
です。じいじは、

「こんなたいしてあつくねえ身体が冷えてっからだ!! ちゃ
んとあったまりなさい。」

「わかったようう・・。」
そんな会話を毎日しています。
ある日ぼくは、テレビで、お風呂は、40度前後が身体には、一番良
いという情報をえました。

そこで、その日のお風呂で、ぼくは、お風呂の設定を40度に変え
ました。するとおじいちゃんは、すかさず「ピピピッ。」と43度ま
でまた温度を上げてしまいました。ぼくは、テレビの情報をおじ
いちゃんに言つてまた温度を下げました。

「なんだ! 言う事聞けないならもう一緒に入らないから
な。」

ぼくは、悲しくなつて、泣きながら、お風呂から出ました。
それから数日じいじとお風呂に入りませんでした。そしたらお母
さんが、話をしてくれました。

「じいじは、凜くんが赤ちゃんの時からお風呂に入れてるんだ
よ。お陰でいつもぐっすり寝てたんだよ。きつとじいじが、身体を
充分あたためてくれたからだよ。」
ぼくは、そんな事とも知らずにじいじにあんなことを言つてし
まったと反省してまた一緒に入る事にしました。久しぶりのじい
じとお風呂でぼくは、言いました。

「じいじに長生きしてほしいから温度を下げてたんだよ。」
と。するとじいじは、

「心配してくれてたんだな。ありがとう。これからは、少し温度
を下げような。」
と言ってくれました。

またいつものように、ぼくの頭を洗ってくれ、ぼくもじいじの背
中をゴシゴシ洗つて楽しいバスタイムが、はじまりました。じい
じいつまでも一緒にお風呂入ろうね。ありがとうじいじ!